

必修科目授業数		916	910	1082	952	3,860	512	460	878	226	228	180	200	210
選択科目授業数			0	28	24	52								
卒業に必要な授業数		916	910	1082	952	3,860	512	460	878	226	228	180	200	210

「博物館法施行規則第七条に基づき、学芸員資格の試験科目の免除を希望するものは次の講義科目を履修しなければならない。」

科目 区分	必修選択 の区分	授 業 科 目	実務教員 による授業	うちシラバス 添付	第1学年		第2学年		第3学年		第4学年		授業時間数合計	実務教員授業時数				うちシラバス添付授業時数			
					週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数	週間 授業 時数	年間 授業 時数		第1学年	第2学年	第3学年	第4学年	第1学年	第2学年	第3学年	第4学年
講 義	必 修	生涯学習概論			2	48							48								
		博物館概論			2	48								48							
		博物館教育論			2	48								48							
		博物館資料論					2	48						48							
		博物館情報・メディア論					2	48						48							
		博物館経営論					2	48						48							
		博物館資料保存論							2	48				48							
		博物館展示論							2	48				48							
必修科目授業時数							144		144		96		0	384							
学芸員受験資格に必要な授業時数							144		144		96		0	384							

東洋美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
造形専門課程	保存修復科 昼間部(4年制)	2021	1年・後期
授業区分	授業科目名	担当教員	時間数
講義	コンサバター入門	松田泰典	24時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
本授業は文化遺産の保存修復(Conservation)を学ぶ1年生を対象とし、その目的や歴史、倫理規範、具体的な活動内容、Conservationにおける科学技術の支援と関係性、MuseumにおけるConservator の役割、さまざまな実状や課題などについて、英文講読によって理解する。欧米で発達した当該分野の概要を体得し、彼我の相違も考察することで、自身の確かなConservator像をもつことを目標とする。			
【講義概要】			
上記の目標に対し、英語で書かれたテキスト			
「Philip Ward: “The Nature of Conservation: A Race Against Time”, The Getty Conservation Institute (1989)」を用い、授業を進める。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	1. Conservationとは何か？		
2	2. Conservationの歴史		
3	3. MuseumにおけるConservationの役割		
4	4. Museumにおける他の専門家との関係性		
5	5. Conservatorの実務概要		
6	6. Conservatorの倫理規範と実践基準(Codes of Ethics、Guideline for Practices)		
7	7. Conservatorの基本的な活動		
8	8. Documentation記録活動		
9	9. Preventive Conservation予防保存活動		
10	10. Restoration修復活動～介入的処置(Interventive Treatment)		
11	11. Conservation における科学技術の支援		
12	12. Conservation Science保存科学とは？		
13			
14			
15			
【成績評価方法】			
授業への積極的参加(出席、発表、討論)、定期試験(テキスト翻訳(英文読解)、Conservation やConservatorの役割の理解、自身のConservator像の構築など)により客観評価する。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
英文テキストを受講生が逐語訳を発表しつつ(輪読形式)、講師が解説を加え、インタラクティブに討論し、理解する方式を採る。担当教員は、Technical Chief Advisorを務め、現地に7年間勤務した経験をもつ。GEM-CCプロジェクトでは、主として若手エジプト人Conservatorの人材開発に当たった。その豊富な経験に基づき、Museumにおける当該分野における専門家(Conservator)の育成に向けた授業を展開し、初学者のマインド・セットを確固とする。			

東洋美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
造形専門課程	保存修復科 昼間部(4年制)	2021	4年・通年
授業区分	授業科目名	担当教員	時間数
講義	紙の保存と修復	加藤 雅人	50時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
まず、紙に関して、その原材料、製法を科学的、技術的な面から理解する。次に、紙の保存と修復に必要な基礎知識を学ぶ。さらに、国内外で、紙文化財のみならず様々な文化財の修復材料として今では必要不可欠な和紙について学ぶ。これらを通して、紙と保存修復に限らず、問題解決における科学的アプローチ法を学ぶ。			
【講義概要】			
紙は、本、古文書、絵画など多くの文化財の素材であると同時に、紙以外の素材でできている文化財の修復材料ともなる。また、2000年以上基本的な製造原理に変化がないという特色も持つ。ごく単純に見える紙の製造過程を各種の物理学的、化学的現象としてとらえることで、科学的に紙を理解する。そこから、紙の劣化、保存、修復を考察する。また、紙を客観的、科学的に評価する方法と実際の紙の性質を関連付けて理解する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1)文化財と科学 ・文化財、修復材料としての紙と科学 ・科学的実験のための基礎知識、マナー 2)紙の基礎知識 ・定義 ・紙の製造工程 ・紙の原料、原料処理 ・紙に関連する化学的知識(セルロース。水素結合。色) ・紙の評価(視覚的評価、計量など) ・紙への機能高機能化および機能付与(添加材料と物理的処理) ・和紙についての基礎知識 3)紙の劣化と保存修復、分析調査 ・劣化の定義およびメカニズム(物理的劣化、化学的劣化) ・紙の化学分析(方法とその原理) ・紙の保存と展示(収蔵庫、収蔵箱。温度湿度。照明。IPM) ・紙の修復と科学(クリーニング、裏打ち、接着剤(糊)、乾燥、フラットニング) 上記内容を、実験デモ、講義などを通して全25コマで行う。			
【成績評価方法】			
出席とレポート 1) 出欠 50% 2) レポート(中間)20% 3) レポート(期末)30% なお出席全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
教員は、現職(東京文化財研究所)で紙文化財の分析とその保存修復に携わってきた。特に現職では国の指定文化財を中心に実際の修復現場において指導助言を行っている。授業は、実際の現場で必要とされる知識とともに、問題解決のアプローチ法を身に付けることを目的としている。また、座学に加えて、現場で起きていることに密接した内容の実験、実験デモをおこなうことで理解を促す。			

東洋美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
造形専門課程	保存修復科 昼間部(4年制)	2021	1年生通年
授業区分	授業科目名	担当教員	時間数
実技・演習	写真演習Ⅰ	小笠原勇介	68時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
デジタルアーカイブとしての、油彩画、掛け軸、日本画等々の文化財撮影技術を習得していく中で、デジタルカメラ、パソコン等撮影機材やライティング、そして安全面に配慮した撮影技法の習得や、文化財の撮影において最も重要な点である撮影対象物に対して破損などが起こらない為の安全対策実務の習得を目指す。			
【授業概要】			
写真撮影を行う上でのカメラ、パソコン、ライト(ストロボ)の基本的な扱い方を学ぶ。また、撮影対象の形状や質感に合わせたライティング方法について学び、保存修復の分野において求められる写真の撮影技法について理解するための基礎を身につける。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	講義:カメラの原理Ⅰ (カメラ設定と出力される写真の関係、基本的な取り扱い)		
2	講義:カメラの原理Ⅱ (レンズ、絞り与被写界深度、歪み、収差、照明、色温度、点光源と面光源)		
3	カメラ以外の撮影機材の取り扱い(三脚の取り扱いと注意点、カメラの取り付け、照明)		
4	基本的な撮影のセッティング 作品の安全な取り扱いと露出の決定		
5	パソコン、ソフト(Lightroom、Photoshop)の取り扱い		
6	光源取り扱いⅠ タングステンライト基礎		
7	光源取り扱いⅡ タングステンライト応用 ディフューザー、レフ板ほか		
8	光源取り扱いⅢ ストロボ基礎		
9	光源取り扱いⅣ ストロボ応用 ディフューザー、レフ板ほか		
10	撮影実習Ⅰ 平面 掛け軸		
11	撮影実習Ⅱ 平面 日本画		
12	撮影実習Ⅲ 平面 油彩画		
13	撮影実習Ⅳ 立体 石膏像		
14	撮影実習Ⅴ 立体 陶器		
15	撮影実習Ⅵ 立体 剥製		
16	撮影実習Ⅶ 立体 ガラス器		
17	撮影実習Ⅷ 染織品Ⅰ 一枚物の撮影		
18	撮影実習Ⅸ 染織品Ⅱ 着物撮影		
19	総合的実習Ⅰ グループによる撮影Ⅰ		
20	総合的実習Ⅱ グループによる撮影Ⅱ		
21	総合的実習Ⅲ 個人による撮影Ⅰ		
22	総合的実習Ⅳ 個人による撮影Ⅱ		
23	撮影技術試験(グループ)		
24	撮影技術試験(個人)		
【成績評価方法】			
全体を100%としたときにグループでの話し合いでの積極的な発言と、作業における協調性と個々人の主体的に参加しているかどうかを80%で評価し、個人で行った場合の撮影作業の各工程の理解度と習熟度で20%の評価をつける。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技主体の授業を展開していく。グループに分かれ話し合いを行いながら対象にふさわしい撮影方法を生徒が模索し、その提案を担当教員が修正していくことで実用的な撮影技術を身につける。また、技術的に劣るところは重点的に指導を行う。担当教員はカメラマンとして、美術館、博物館の美術品、遺物等の図録、アーカイブ、などに携わってきた経験があり、近年は大エジプト博物館開館に伴う事業に参加しエジプトの遺物の撮影にも携わっている。長年に渡り各地で文化財を撮影してきた経験を活かした授業を展開していく。			

東洋美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
造形専門課程	保存修復科 昼間部(4年制)	2021	2年生通年
授業区分	授業科目名	担当教員	時間数
実技・演習	写真演習Ⅱ	小笠原勇介	68時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
デジタルアーカイブとしての、油彩画、掛け軸、日本画等々の文化財撮影技術を習得していく中で、デジタルカメラ、パソコン等撮影機材やライティング、そして安全面に配慮した撮影技法の習得を目標とし、一眼レフや大型カメラなど文化財の撮影に使用される、カメラや機材の基本的な取り扱いを身につける。			
【授業概要】			
写真撮影を行う上でのカメラ、パソコン、ライト(ストロボ)の基本的な扱い方や、保存修復に求められる基本的な撮影技法、Photoshopを使った簡単な画像処理方法についての実技を行っていく。また、一眼レフだけではなく大型カメラの仕組み、大型カメラを使用したデジタル撮影技術についても学んでいく。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	カメラ撮影実習Ⅰ 基礎的な撮影技術の復習(作品の取り扱い、動線の確保)		
2	カメラ撮影実習Ⅱ 基礎的な撮影技術の復習(カメラ、照明機材など撮影セッティング)		
3	カメラ撮影実習Ⅲ 基礎的な撮影技術の復習(撮影データ処理)		
4	作品の部分拡大写真の撮影技術		
5	大型カメラ取り扱いⅠ 大型カメラの構造と組立、分解		
6	大型カメラ取り扱いⅡ 大型カメラを使用した撮影とソフトの使い方		
7	大型カメラ取り扱いⅢ 大型カメラを使用した平面作品の撮影		
8	大型カメラ取り扱いⅣ 大型カメラを使用した立体作品の撮影		
9	撮影実習① 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
10	撮影実習② 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
11	撮影実習③ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
12	撮影実習④ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
13	撮影実習⑤ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
14	撮影実習⑥ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
15	撮影実習⑦ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
16	撮影実習⑧ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
17	撮影実習⑨ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
18	撮影実習⑩ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
19	撮影実習⑪ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
20	撮影実習⑫ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
21	撮影実習⑬ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
22	撮影実習⑭ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
23	撮影実習⑮ 先生の指示に合わせ様々な素材で作られた対象を撮影する		
24	撮影技術試験		
【成績評価方法】			
全体を100%としたときにグループでの話し合いでの積極的な発言と、作業における協調性と個々人の主体的に参加しているかどうかを80%で評価し、個人で行った場合の撮影作業の各工程の理解度と習熟度で20%の評価をつける。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技主体の授業を展開していく。グループに分かれ話し合いを行いながら対象にふさわしい撮影方法を生徒が模索し、その提案を担当教員が修正していくことで実用的な撮影技術を身につける。また、技術的に劣るところは重点的に指導を行う。担当教員はカメラマンとして、美術館、博物館の美術品、遺物等の図録、アーカイブ、などに携わってきた経験があり、近年は大エジプト博物館開館に伴う事業に参加しエジプトの遺物の撮影にも携わっている。長年に渡り各地で文化財を撮影してきた経験を活かした授業を展開していく。			

東洋美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
造形専門課程	保存修復科 昼間部(4年制)	2021	4年・前期
授業区分	授業科目名	担当教員	時間数
講義	書誌学	矢島 明希子	60時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
書物文化の歴史や、現代に残された古書の特徴について理解を深め、和装本の調査を行う。			
【講義概要】			
書誌学とは、書物の内容だけでなく、外形や材料など書物そのものを調査し、そこにあらわれる文化や歴史を考える学問です。本講座では、連続2時限のうち前半を講義、後半を実習に当てて進める予定です。講義では、主に日本を中心とした東アジアの書物の歴史や書物文化について広く学び、実習では、実際に古書を手にとって、その本がいつ、どこで、誰が出版した、どのような本なのかを調査し、調査カードを作成します。最後は公共図書館での学外調査を予定しています。			
なお、受講生の都合が合えば、書物・印刷関係の博物館見学も行いたいと考えています。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	(講義)紙の本以前の文字記録媒体の展開、(実習)和装本の調査方法概説		
2	(講義)紙の歴史と種類、(実習)漢字や仮名の字体の特徴と読み方		
3	(講義)中国・朝鮮の書物文化、(講義)装訂の見方		
4	(講義)日本中古の写本と蔵書文化、(実習)扉・序文など前付の見方		
5	(講義)日本中古の刊本、(実習)本文の見方		
6	(講義)古活字版、(実習)版式の見方		
7	(講義)江戸時代の商業出版①、(実習)尾題・後序など後付の見方		
8	(講義)江戸時代の商業出版②、(実習)刊記・奥付の見方		
9	(講義)江戸時代の非営利出版、(実習)印記・書入の見方		
10	(講義)近代の蔵書と書物の移動、(実習)目録事項の決定		
11	(講義)複製方法と資料のデジタル化、(実習)古書の検索方法など学外調査準備		
12	公共図書館における調査実習①		
13	公共図書館における調査実習②		
14	博物館見学(東洋文庫)		
15	博物館見学(印刷博物館)		
【成績評価方法】			
出席および提出物によって評価します。なお出席全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
担当教員は慶應義塾大学附属研究所斯道文庫にて古書の調査研究に従事しており、これまで特殊文庫や大学図書館などの諸機関で調査を行ってきた。このような経験に基づいて、受講生に古書の文化的背景や調査方法をレクチャーし、実際に学外での調査活動を行う。			

東洋美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
造形専門課程	保存修復科 昼間部(4年制)	2021	4年・通年
授業区分	授業科目名	担当教員	時間数
演習	卒業研究ゼミ	松田泰典	100時間

【授業の到達目標及びテーマ】

文化遺産の保存修復を学んできた本科4年生は、その集大成として、各自のテーマに沿って1年間をかけた卒業研究に取り組み、最終的に研究成果を公開発表、論文提出する。本授業では、1)研究テーマの設定から、2)具体的な材料や手法の選択、3)研究環境の整備、4)課題の抽出や半年にわたる研究推進、さらに5)研究成果の整理、6)発表技術や論文制作を指導し、各学生の学修大成としての卒業研究の完成を目標とする。

【講義概要】

本授業は、隔週のゼミ形式で展開する。まず、3年間の学修課程を振り返り、自身の関心や興味を客観的に見つめることで、各自のテーマを設定し、研究の具体的な姿を描けるように指導する。学生は、研究の材料、手法、環境条件(施設、資器材、指導者など)などを確定し、ゼミでの討論等を通じて研究を展開する。研究開始後は、その進捗をチェックし、成果を整理し課題を抽出、さらに推進を続ける。最終的に成果をまとめ、卒業研究(口頭)発表会(1月)、卒展(2月:ポスター発表)、研究論文の提出(2月)をアウトプットとし、研究成果の具体的内容を発表できる形式に整理する。本授業では、それぞれの発表技術について繰り返し指導する。

回	授業計画及び学習の内容
1	1. 3年間の振り返り(関心の高い分野、取り組みたい内容)
2	2. 研究テーマの設定
3	3. 研究内容の具体化
4	4. 研究目標(何を対象に、どこまでもターゲットとするか)、研究方法の策定
5	5. 研究方法の具体化(内外の指導者、材料の選定、研究環境の整備)
6	6. 研究の推進
7	7. 成果の整理、課題の抽出や解決
8	8. 口頭発表、ポスター制作、論文作成
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	

【成績評価方法】

ゼミ授業への積極的参加(出席、発表、討論)、目標設定と研究態度、研究の推進、課題の抽出、成果のまとめ、卒業研究(口頭)発表会、卒展(ポスター発表)、研究論文

【授業の特徴・形式と教員紹介】

本授業は、年間を通じて隔週のゼミ形式で実施する。各学生は、自己の関心に基づいてテーマを設定し、研究環境を整備し推進するが、ゼミにおいては毎回進捗を発表し、担当教員の指導を受け討論する。担当教員は、民間企業研究所での8年間の研究生生活と16年にわたる大学教員(保存修復分野)の経験の後、国際協力機構(JICA)の大エジプト博物館保存修復センター(GEM-CC)プロジェクトでは現地でTechnical Chief Advisorを7年間務め、エジプト人専門家の研究指導に当たってきた。また東京藝大院博士課程に在籍する留学生の指導にも従事してきた。

東洋美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
造形専門課程	保存修復科 昼間部(4年制)	2021	2年・通年
授業区分	授業科目名	担当教員	時間数
演習	日本画保存修復	三浦功美子	112時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
装こう作品の種類、構造、材質の基礎を理解する。その上で、修復の実習を行うことで、装こう作品の損傷劣化の要因、修復、保存方法についての理解を深めることを目標とする。			
【講義概要】			
日本画を鑑賞、取り扱い、保存するために表装されてる装こう作品(掛軸、卷子、屏風、額など)について学ぶ。装こう作品の構造・材質、その損傷・劣化の特徴、保存と修復について、直接作品に触れながらの講義を行う。後半では色紙作品の損傷劣化状態を調査して、修復の実習を行う。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	装こう作品(掛軸、卷子、冊子)の構造、材質、損傷劣化について		
2	装こう作品(屏風、額)の構造、材質、損傷劣化について		
3	装こう作品(冊子)の構造、材質、損傷劣化について		
4	装こう作品の修復について		
5	装こう作品の保存について		
6	装こう作品に使用する材料(1) 紙について		
7	装こう作品に使用する材料(2) 接着剤について		
8	定期試験(全授業に関する試験)		
9	色紙作品の修復の実習(1) 色紙の修復前の写真撮影、損傷劣化状態の調査		
10	色紙作品の修復の実習(2) 画面のドライクリーニングと色材の剥落止め		
11	色紙作品の修復の実習(3) ボードからの画面の分離と洗浄		
12	色紙作品の修復の実習(4) 画面の裏打ち		
13	色紙作品の修復の実習(5) 画面の中性紙ボードへの装着		
14	色紙作品の修復の実習(6) 色紙の仕立て		
15	色紙作品の修復の実習(7) 色紙の修復後の写真撮影、報告書の作成		
【成績評価方法】			
授業全体を100点満点として採点する。試験40点、作品の修復を完了と修復報告書の提出40点、授業への積極的な取り組み20点から成績評価を行う。出席全体の2／3以下の場合は、成績評価の対象外になるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
演習形式を基本とするが、多種類の装こう作品についての解説や触れる時間も取り入れている。担当教員は、指定文化財の修復を行っている工房に勤務後、現在は工房を主宰して装こう作品の修復に携わっている。修復の経験に基づいて文化財の保存修復者養成に向けた授業を展開する。			

東洋美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
造形専門課程	保存修復科 昼間部(4年制)	2021	3年半期(A:後期、B:前期)
授業区分	授業科目名	担当教員	時間数
演習/実技	表装	石井弘芳	200時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
表具の歴史を知り、実技として軸装丁や仮張りの貼り替えを行ってくことで、正麩糊の作製や伝統的な糊刷毛や切継刷毛を使用した和紙への糊付けや紙継ぎについて知り、表装・装潢という分野における保存修復作業の原点を知り、長い歴史の中で培われた装潢技術を基にした保存修復の技術を身につけることを目標とする。			
【講義概要】			
表具・経師古くは装潢共言い千年以上の流れの有る表装の沿革・表具様式・道具・掛軸・屏風・仮張り等学科・実技製作を通して広く勉強する事により表装保存修復の原点を知る。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	表具の沿革・様式・名称・道具等の講義 道具作り・竹べら		
2	道具の使い方(丸包丁砥ぎ・紙裁ち・定規・鋸使用他)。		
3	糊を煮る・仮張り張替2枚製作と清掃修復(下張り剥し調整他)和紙紙棒継		
4	糊を煮る・仮張り張替製作(下張り剥し調整)骨縛り・ベタ張り他		
5	糊を煮る・仮張り張替製作と(下張り剥し調整他)二遍蓑張り・蓑押さえ張り		
6	糊を煮る・仮張り張替製作(下張り剥し調整)二遍袋張り・清ベタ張り他		
7	糊を煮る・掛軸色紙掛け軸製作裂地取り・裂地裁ち・裂地の縮み入れ・肌裏打ち		
8	糊を煮る・掛軸色紙掛け軸製作(本紙・裂地の増し裏打ち・型紙作り・裏打ち練習		
9	糊を煮る・掛軸色紙掛け軸製作・糸がけ・耳折れ・上げ裏打ち		
10	糊を煮る・掛軸色紙掛け軸製作軸先・八双決め		
11	糊を煮る・掛軸色紙掛け軸製作仕上げ作業		
12	糊を煮る・掛軸製作(本紙と裂地の講義・本紙決めと裂地取り合わせ・裂地裁ち		
13	糊を煮る・掛軸製作(裏打ちの練習・裂地の縮み入れ、台紙作り矢車染め、砂子振り		
14	糊を煮る・午前中表具様式の講義・裏打ちの練習、台紙作り矢車染め、砂子振り		
15	糊を煮る・掛軸製作(裂地に張り手を付け裏打ち紙取り肌裏打ち本紙とも裏打)		
16	糊を煮る・掛軸製作(本紙・裂地の増し裏打ち・裏打ちの練習他		
17	糊を煮る・掛軸製作福島裂地取りと地獄裏打ち 表具真行草の講義他		
18	糊を煮る・掛軸製作表具の仕方・本紙と裂地裁ち切継ぎ		
19	糊を煮る・掛軸製作切継ぎ耳折・軸袋・八双袋他		
20	糊を煮る・掛軸製作上げ裏打ち紙取り・上裏打ち・仮張り貼り込み・軸先決め他		
21	糊を煮る・掛軸製作軸先・裏摺り表返し・八双・風帯作り		
22	糊を煮る・掛軸製作仕上げ作業・耳すき・八双・かん・風帯取り付け		
23	糊を煮る・掛軸製作仕上げ作業・軸・八双・風帯取り付け・屏風の話		
24	仮張りに柿渋塗り・裏打ちの練習		
25	仮張製作・色紙掛け軸・行の行(幢補)仕立掛軸・修復表具総評		
【成績評価方法】			
授業全体を100点として扱い実技製作として掛軸ほか成果物の完成度を40点、レポート課題30点、授業への参加・意欲を30点から成績評価を行う。なお出席全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
実技製作を基本とするが、実際の現場における話題なども交えつつ授業を進めていく。細かな作業が多いため、一人一人の作業に対する取り組みを観察しつつ指導を行っていき、装潢技術を身につけていく。担当教員は現役の表具師として国の現代の名工に登録されている。業界においても積極的にリーダーとして動いており、現在は、東京表具経師内装文化協会会長を務めている。実技においては、文化財ほか大切に遺されてきたものを扱うことの出来る人としての気質を大事にしながら授業を展開していく。			

東洋美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
造形専門課程	保存修復科 昼間部(4年制)	2021	1年・前期
授業区分	授業科目名	担当教員	時間数
実技	木製品修復基礎I	姫路 峰行	72時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
木彫文化財の修復の基礎的な理解を深めるため、道具や材料の名称、くせ、使い方、手入れの方法を学び、円や直線、格子など基本的な文様の彫刻や、簡易な透かし彫りや蓮弁の製作を通じ木彫の基礎を学び、理解することを目標とする。			
【授業概要】			
木彫の保存修復(主に・仏像・仏具・神像・神具・神輿含む建築彫刻など)に必要な基本的な知識と共に、実技を主体として木彫のすばらしさ、楽しさ、難しさを学ぶ授業である。木彫において技術的基礎となる彫刻刀の使い方や知識的基礎となる道具の名称をはじめ、木目の読み方など実技経験を通して学ぶ。制作物としては彫刻刀の持ち方など初歩的な事を学ぶ為に彫刻刀の柄の制作から始め、木彫の基本となる円系の紋様や直線系紋様の彫刻を彫り経験を積んだ後、仏像の修復で欠損していることが多い蓮弁の比較的簡易な形式のものを制作する。			
回	授業計画及び学習の内容		
1	道具の名称や持ち方などの基礎を学ぶ。砥石による彫刻刀の研ぎ方を学ぶ(簡易)		
2	彫刻刀の柄の制作を通じ彫刻刀の使い方を学ぶ		
3	彫刻刀の柄の制作を通じ彫刻刀の使い方を学ぶ		
4	木目を読む経験を積むために木彫の基礎となる円系との彫刻物と直線系の彫刻物を彫る		
5	木目を読む経験を積むために木彫の基礎となる円系との彫刻物と直線系の彫刻物を彫る		
6	木目を読む経験を積むために木彫の基礎となる円系との彫刻物と直線系の彫刻物を彫る		
7	蓮弁制作		
8	蓮弁制作		
【成績評価方法】			
全体を100として、授業への出席状況50、作業工程・道具の使い方への理解度50 授業態度や作品制作への取り組み具合。なお出席全体の2/3以下の場合は、成績評価の対象外となるので注意すること。			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
日本の文化である木彫も、近年は触れる機会の少ない技術になっているが、実技を通してそのような伝統技術を体験する。担当教員は仏像、仏具や寺社院に彩色を行う彩色師の家に生まれる。仏像彫刻、修復を京仏師の服部俊慶に師事し7年間の修業により、独立の許可をもらい東京に戻り父・青峯の下で彩色を学び現在に至る。浅草、浅草寺本堂西東陣の天井画の復元彩色や、小前田上町の屋台(有形文化財)の彫刻の修復・復元彩色などを手掛けており、仏師・彩色師としての実務経験を踏まえ授業を進めていく。			

東洋美術学校

開講課程	開講学科	開講年度	履修対象
造形専門課程	保存修復科 昼間部(4年制)	2021	1年後期
授業区分	授業科目名	担当教員	時間数
演習/実技	洋書製本技術	近藤理恵	64時間
【授業の到達目標及びテーマ】			
基本的な製本技術を学び、「もの」としての本の構造を理解する。実習を通して、製本技術の習得、道具の扱い方、素材の特性を学ぶことを目標とする。一方、素材の選択や表紙デザインによって表現手段としての「本」の可能性を探る。			
【授業概要】			
本の修復をするには製本技術、製本構造の歴史や素材に関する知識が不可欠です。実習では、基本的な製本技術を学び、講義では2000年続く本の歴史を紹介します。			
授業計画及び学習の内容			
実技 1)角背くるみ製本 文庫本(ソフトカバー)のハードカバーへの改装 2)糸綴じ丸背製本の制作 本を解体し、補修して糸綴じをし、丸背のハードカバーくるみ製本を作る 3)保存函の制作 授業で製作した糸綴じ丸背製本を収納する、ちり付函を作る。 講義 4)本の歴史、本の構造と洋式の種類、紙の種類と性質 フランスの製本工場の映像を視聴、伝統的な製本工程や道具類を解説する *上記内容を8回の授業の中で行う。			
【成績評価方法】			
授業全体を100点満点として採点。制作物評価45点、レポート45点、授業への取り組み方(意欲、出席)10点			
【授業の特徴・形式と教員紹介】			
製本実習が中心の授業である。記録を取りながら制作し、のちの製本時に使うテキストを作るつもりで記録書を作る。担当教員は、製本家である。書籍修復科として活動中であり、美術大学などで製本講座を受け持つ、授業では、実際に手掛けた修復例なども折に触れ紹介していく。			